

## キセラ川西中央公園で冒険遊び場(プレーパーク)を作ろう！

市では現在、中央公園の里庭エリアにプレーパークができないか検討しています。

そこで、プレーパークづくりについて学習するため、前 52 号ニュースでもご案内した『始まりの講座 全 3 回』を開催しました。

### 《プレーパーク(冒険遊び場)ってなんだろう?》

プレーパークとは、子どもたちがやってみたい事に自由に挑戦できる遊び場です。

子どもから「自由」を奪うのは簡単です。

泥んこ遊びをしようとしたときに「汚いからやめなさい。」

木登りをしようとして「怪我したらどうするの?」

大きな声を出して遊んでいたなら「静かに! (周りに迷惑でしょ!)」

どの声かけも、時と場合と価値観によっては「常識的」な声かけなのかもしれません。

でも、そんな一言の積み重ねが、子どもの「やってみよう!」という気持ちを奪い、何をするにも大人の顔色を見て、常に指示を待つ人間になり得る…

そんな危うさを兼ね備えています。

プレーパークとは、子どもたちに責任を返してあげて、子どもが自由に遊べる事を大事にした遊び場です。

泥んこ遊び 体中泥だらけ! でも、おもしろいね。

((大人の声) これは、汚れてもいい服で遊ぶようにしようね。)

木登り 落ちたら痛い。でも、意外にバランスとるのうまい。

(腕の力がない子は高くまで登れないから意外に大きな怪我はしないんだね。

小さいころから登っていると、腕の力がついた頃には高所で気をつけられる力が付いてるね。)

大きな声 出すと気持ちいいね。

(そういえば子どもって、ウルサイのが当たり前だったね。)

プレーパークの事をもっと知ってもらいたい。みんなの思いも聞きたい。

そして、自分たちの地域にも、自分たちの手で、子どもが本気で遊び込める安心安全な場を作りたい。

そんな市民の声から、プレーパーク講座が開催されることになりました。



# 第1回 プレーパーク講座〔結果報告〕

日時：平成27年3月15日(日) 13:00~15:00  
場所：アステ川西6F アステ市民プラザマルチスペース2  
出席者：24名(他市2名、コンサルタント3名)

## ～外遊びで育つ子どもの力～

講師：関戸 博樹氏

(特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会 理事)

### 【講座内容】

#### ①開催挨拶・講師紹介

はじめのあいさつに続き、講師の関戸さんの紹介を行いました。

#### ②「遊び絵地図ワークショップ」

参加者が自分の子供時代を振り返ってどのような遊びをしていたか、絵に描いてテーブルごとで発表しました。

#### ③プレーパーク紹介

最近の子ども達の遊びの背景、子供の成長などを踏まえ、冒険遊び場の必要性や実際の活動内容を紹介されました。

#### ④意見交換・質疑等

テーブルごとで今回の講座の感想などを話し合い、大人と子供との差は何だと思ふかなど質疑に対して関戸さんからご回答をいただきました。



### 【講座の内容】

#### ■現在の子供たちの遊びの背景

- ・人間関係にも都市化の影響が及んでいる。
- ・子供たちの遊び場が、遊びに行く距離も範囲も昔より狭まっている。
- ・第三者を挟んだ公園の苦情によってどんどん規制がかかり、使用者側にとってつまらない公園になっている。
- ・森・林・川など自然の中で遊ぶ文化が途絶えてしまっている。
- ・昔と現代では屋内と屋外での遊び時間は逆転している。
- ・都市化の結果、自信をなくし、自己肯定感の低い子どもが増えている。
- ・自己肯定感遊びで生まれ、遊びに対しての満足度は子ども自身にしかわからず、遊びの中で自分の中に自信が生まれ、失敗を恐れなくなる。

#### ■母親からのプレッシャー

- ・母親が子供に「他人に迷惑をかける子供に育てよう。」を求めている。
- ・親自体が周囲や、親同士の間で感じるプレッシャーを受けている。

#### ■子供の成長への影響

- ・転んだ時など受け身が取れず、大きなケガをしてしまう事が多くなる。

#### ■冒険遊び場

- ・子供達は自分で遊び場を作れるところを好む。
- ・日本の遊び場は、住民が主導、行政が支援する形が多い。(欧州は逆)

#### ■日本の冒険遊び場

- ・今まで行政にとって、住民は苦情を言う存在だったが、冒険遊び場作りに関わる住民は、行政と同じ方向を向き、住民から直接コミュニケーションを取る存在となってくれる。
- ・苦情を言っていた住民はまちについて真剣に考えている人が多い。
- ・大人たちの仕事は、子どもたちが「遊びたい」と思う気持ちを100%発揮できる場所を作る事。

#### ■子供の好きな遊び

- ・自分で環境を変えられる遊びが好き。(泥遊び、水遊び、火遊び)
- ・子どもたちは危ないことが何か大体わかっている。
- ・大人は危ないことが分かっていない子供に介入すべき。
- ・子供がやりたいと思っていない事を無理やりやらせるのは危険
- ・普段はやってはいけないこともプレーパークではある程度大目に見る。
- ・子どもたちが興味関心に合わせて触って見れるものが多く、自分の中で判断できたり、肯定できる経験を増やせる場所というのが大事。

#### ■ナナメの関係

- ・色々な子や母親と関わることによって、それぞれの間に「タテ」ではなく「ナナメの関係」ができる。
- ・大人自身も遊び場作りを通して他の子と接することにより、自己肯定感が増えていく。
- ・冒険遊び場作りを通し、様々な人たちが自分にできることに気づいていく。

#### ■まとめ

- ・遊ぶことを通してできる事を増やし、子供達の中に自己肯定感が生まれる。
- ・子供は自分にとって起こった辛い出来事を言語化できない為、遊びの中で再構築して理解しようとしている。
- ・子供は大人よりも感覚が鋭く、遊びを通して感覚が統合されていく。
- ・手におえる危険か手におえない危険を判断できる能力がある。
- ・刃物などの危険なものも子供の頃から少しずつ使い方を教えることによって自分で学習していく。リスク0の状態のまま成長する事がとても危険。
- ・運動神経は遺伝ではなく、運動はやればやるほど発達する。
- ・遊びを通して、子供も大人も本来自分ができる事に気づき、行動していく。
- ・行政・市民・プレーリーダーが何重にも協力し合うことによって、プレーパークやまちづくりを行っていくことが大切。

## 「第9回 川西中央北エコまち協議会」の報告

平成27年3月20日「第9回川西市中央北エコまち協議会」を市役所にて開催し、当協議会からも両副会長にご出席いただきました。

内容は、川西市中央北地区低炭素まちづくり計画の改定で、改定内容の主なものは、計画名称を「中央北地区低炭素まちづくり計画」から「キセラ川西低炭素まちづくり計画」に変更することと、もう1つは、交通分野において、キセラ川西と川西能勢口の回遊性の向上や、公共交通利用促進を検討するため、計画区域を現在の土地区画整理事業の区域約22.3haから中心市街地活性化基本計画の約80haに拡大することで、この内容について、エコまち協議会で改定案について承認いただきました。

現在、都市計画変更の説明会開催など最終の改定事務を進めているところです。

## “まちづくり大使の西畠清順さん” 移植予定の台場クヌギ等視察

4月24日、中央公園のエントランスエリア、里庭エリアに移植予定の「エドヒガン」と「台場クヌギ」の準備状況について、キセラ川西まちづくり大使の西畠清順さんが黒川地区を視察しました。



「台場クヌギ」の準備状況を視察する西畠氏（右）

# お知らせ

## 第7-1-1 工区が完成しました

この度、阪神間都市計画事業中央北地区特定土地区画整理事業のうち、第7-1-1工区の整地工事、土壌改良工事等が完成しました（右図参照）。  
ご協力いただきありがとうございました。



■工事完了済み工区



### 第107回 川西市中央北地区まちづくり協議会 計画検討委員会の開催お知らせ（協議会員どなたでも参加できます）

日時：平成27年6月2日(火) 17:30～ 場所：市役所2階 202会議室

### 第9回 まちづくり協議会 町名変更検討部会 の開催お知らせ

日時：平成27年6月2日(火) 上記終了後（18時頃から） 場所：同上会議室

建築物の建築などを行う場合、土地区画整理法第76条許可申請・地区計画の届出が必要です。

また、「中央北まちづくり指針」や「低炭素まちづくり計画」等に基づいた建築計画であるかを確認するため、事前に「建築行為等の手続条例」に基づく協議が必要です。（詳しくは、地区整備課 072-740-1207へ）

権利者が死亡され名義変更されていない方や、権利の移動があった場合、住所氏名の変更があった場合はご連絡を。

上記の申告等や「阪神間都市計画事業中央北地区特定土地区画整理事業」について質問などがありましたらご連絡ください。

川西市 キセラ川西整備部 キセラ川西推進室 地区推進課

TEL：072-740-1214 FAX：072-740-1330

日時：午前9時～午後5時半（ただし、土曜・日曜・祝日は除きます）

HP：<http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/machi/cyuoukitaseibi/index.html>